

枠から外れたゴール:

女の子とユース女性と
ともにSDGsを加速させる

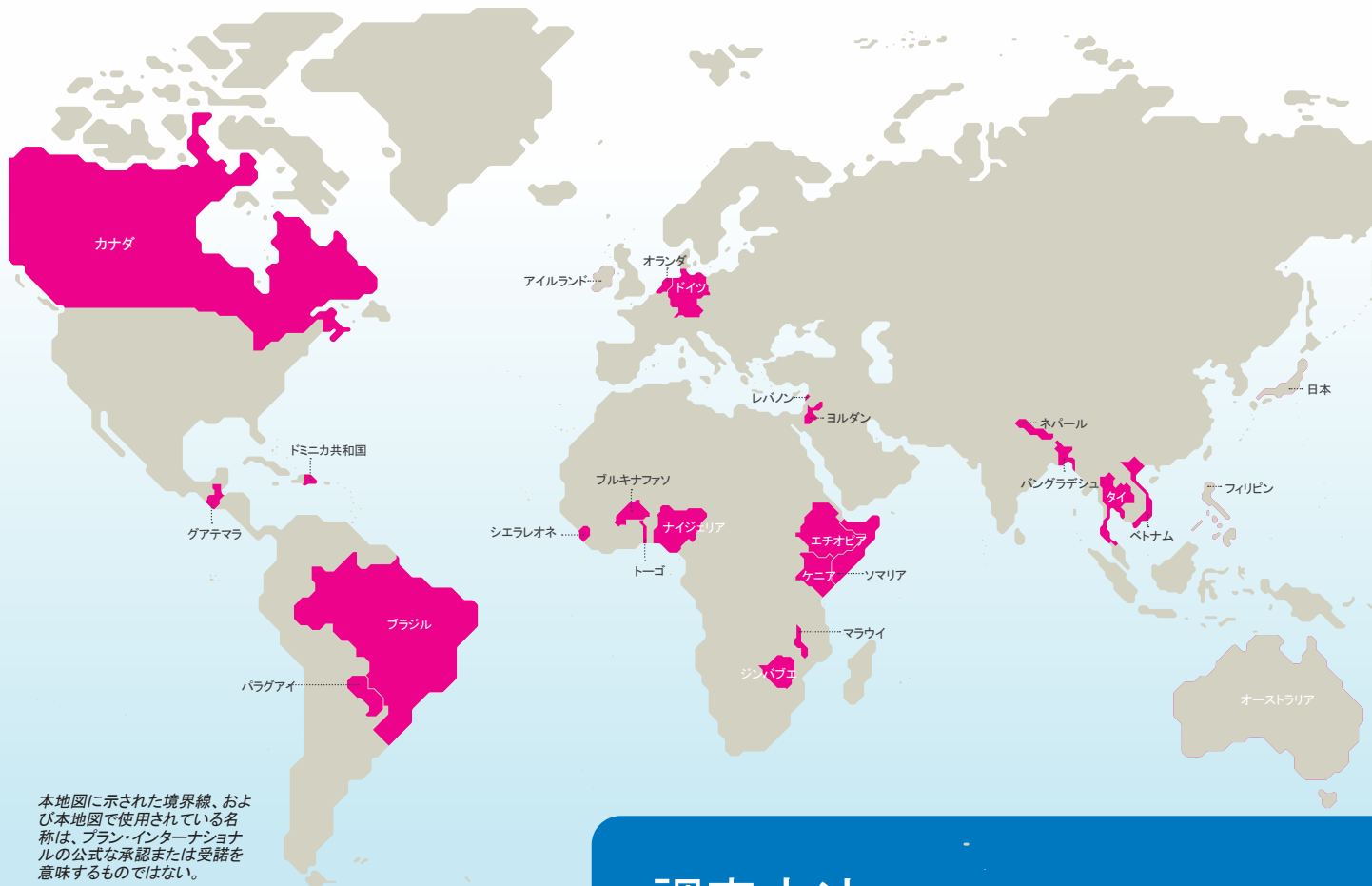
A close-up portrait of a young woman with dark skin and hair pulled back, wearing a white collared shirt. She is looking slightly to the right with a calm expression. The background is a soft-focus blue wall.

シエラレオネの15歳の
女の子は、女性性器切
除(FGM)という有害な
慣習に反対するアドボ
ケイターである。
© Plan International

目次

舞台設定	2
女の子とユース女性の意見	8
結論	11
提言	12

本報告書で使用している写真は、調
査参加者のものではない。



本地図に示された境界線、および本地図で使用されている名称は、プラン・インターナショナルの公式な承認または受諾を意味するものではない。

「持続可能な開発目標 (SDGs) は、すべての人にとってより良く、より持続可能な未来を実現するための青写真です。貧困、不平等、気候変動、環境悪化、平和、正義など、私たちが直面する世界的な課題に言及しています。」

Enna, 18歳、フィリピン

SDGsは2015年に策定された。8年が経過し、2030年の達成期限まで残り半分を切った現在、本報告書は、「2023年ガールズ・レポート」の補足として、SDGsが女の子やユース女性たちにどのように受け止められているかを考察している。ジェンダー平等への焦点は維持され、女の子の生活に実際の影響を与えているのだろうか。現在の進捗で、2030年はより良い生活と世界をもたらすのだろうか。

調査方法

本報告書は、『2023年ガールズ・レポート』のために実施された調査に基づいている。この報告書には、女の子とユース女性が最も重要であるとする目標の達成に向けた、SDGsの進捗状況に関し26カ国で実施された分析が含まれている。分析には、250人超の思春期の女の子とユース女性アクティビストとの対面インタビューとフォーカス・グループ・ディスカッション(FGD)が含まれている。この調査が革新的であるのは、対面インタビューが、自らもアクティビストである70人のユース女性によって実施され、調査結果が参加型手法を用いたFGDによって裏付けられていることに他ならない¹。

ピア・ツー・ピア(訳注: 同年代の仲間であるピア(peer)が実施する)によるインタビューでは、地理、所得水準、市民活動の強化を目指す国際団体「シビカス(CIVICUS)」におけるステイタスの多様性(オープン、クローズド、妨害、抑圧の混合で、許される活動のレベルが決定される)を確保するために選ばれた26カ国の、アクティビストであると自認する203人の女の子とユース女性が参加した。FGDには、同じ国から57人が参加した。

インタビューとFGDの最後に、SDGsをめぐるオープンな討論が行われた。SDGsの何がアクティビストたちの心に響いたのか、響かなかったのか、SDGsの目標は彼らの活動に役立っているのか、そして彼らは自分たちの政府がどのようなSDGsに取り組んでいるのか知っているのか話し合われた。

1. 詳細な調査方法については、State of the World Girls 2023 Technical Reportを参照のこと: Turning the World Around: Girls and young women activists leading the fight for equality: <https://plan-international.org/publications/turning-world-around>

舞台 設定

SDGsは、国連が策定し、2015年に193カ国が採択した17の目標である。経済的、環境的、社会的に持続可能な開発を通じて、2030年までにより良い世界とすべての人にとってより良い生活を実現することがその全体的な目的である²。

ジェンダー平等を達成し、すべての女の子と女性のエンパワーメントを特に目的としたSDG5とともに、他の13の目標（SDG1、2、3、4、6、7、8、9、10、11、13、16、17）は、男女間の平等に対する明確な目標を定めている。

SDGsは、ミレニアム開発目標（MDGs）の後継目標であり、2015年までに10億人以上が極度の貧困から脱却し、初等教育率が向上し、多くの女の子が就学し、5歳未満の子どもの死亡率が半減した³。SDGsは、特に貧富の差、ジェンダー平等、気候変動への取り組みなど、さらに多くのことが必要であることを認識した上で、この成功を土台とし、それを超えるために実施されている。

「アジェンダ2030」の中心柱は、「誰一人取り残さない」ことであるが、最も疎外された人々に手を差し伸べるという2015年の公約にもかかわらず、加盟国はその関心と努力を必ずしも持続させてこなかった⁴。女の子や若い女性は、依然として遅れをとっており、著しい欠乏と不平等に苦しんでいる。どこの国でも、女の子と女性が直面する根深いジェンダー差別は、多くの場合、障害、場所、人種、民族、移住の状況によって更に深刻化している。

17のSDGs



SAP Next-Genの#GirlsTakeoverに参加する女の子。
© Plan International

2. United Nations. Sustainable Development Goals. Retrieved from <https://sdgs.un.org/goals> [accessed 1 August 2023].

3. Global Citizen (n.d.). Millenium Development Goals: The Final Report. Retrieved from: <https://www.globalcitizen.org/en/content/millennium-development-goals-the-final-report/> [accessed 11 August 2023].

4. Guglielmi and Jones (2019) Policy Note: The invisibility of adolescents within the SDGs. GAGE, ODI

SDGsの目標のうち、2030年に向けて順調に進んでいるのは約12%に過ぎず、半数近くが中程度または著しく軌道から外れている^{5,6}。

評価された目標に基づく17の目標の進捗評価、2023年または最新のデータ(%)



5 GENDER EQUALITY
SDG5ではジェンダー平等が約束されたが、進捗は停滞している。重要なのは、ほとんど、あるいはまったく進展が見られない他の目標の多くが、ジェンダー平等と表裏一体のものであることだ。

1 NO POVERTY
今日、極度の貧困状態にある人の数は、4年前よりも増えている。現在の傾向では、2030年までに貧困に関するSDG 1を達成できる国は全体の30%に過ぎない。

2 ZERO HUNGER
飢餓も増加し、2005年の水準に戻っている。

3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING

4 QUALITY EDUCATION

保健と教育の進展は、COVID-19パンデミックによって後退した。

10 REDUCED INEQUALITIES

格差は過去最高を記録し、更に拡大している。わずか26人が世界人口の半分と同じ富を持っている。

13 CLIMATE ACTION

二酸化炭素濃度は過去200万年で最高レベルである。2015年以降、絶滅リスクは3%増加している。現在、5種に1種以上が絶滅の危機に瀕している⁷。

5. Warning Over Half of World Is Being Left Behind, Secretary-General Urges Greater Action to End Extreme Poverty, at Sustainable Development Goals Progress Report Launch. UN Press Retrieved from: <https://press.un.org/en/2023/sgsm21776.doc.htm> [accessed 13 June 2023].

6. United Nations Statistics Division (2023). The Sustainable Development Goals Report 2023. Special Edition. Towards a Rescue Plan for People and Planet. Retrieved from: <https://unstats.un.org/sdgs/report/2023/The-Sustainable-Development-Goals-Report-2023.pdf> [accessed 10 August 2023].

7. United Nations (2023) Halfway to the deadline for the Sustainable Development Goals, progress at a constant 40 per cent is weak and insufficient. Retrieved from: <https://press.un.org/en/2023/sgsm21776.doc.htm#:~:text=Halfway%20to%20the%20deadline%20for,cent%20is%20weak%20and%20insufficient> [accessed 11 August 2023].



SDGsは女の子のために機能しているのか。データからわかることは。

2015年から2020年にかけて、世界レベルでのジェンダー平等に関する全体的な進展はほとんどなかった⁸。世界経済フォーラムによれば、その達成にはあと131年かかるという⁹。SDGの枠組みは、この過程を加速させるべきであり、そのための1つの方法は、ユースの参加へ取り組みを行い、ユース、特に不平等と差別の影響を最も受ける思春期の女の子とユース女性のエネルギーと洞察力を活用することだろう。SDGの前文や「ユース2030」計画などの関連計画は、ユースを「重要な変革の担い手」と位置づけている。そこでは「SDGsは今日の若い世代の手中にある」と述べている。これは、ユース、特に思春期の女の子やユース女性アクティビストの有意義な関与や正式

な資金提供には結びついていない。また、どの指標を見ても、変革の担い手としてのユースに対する進捗は把握されていない。彼らには真の進歩のための触媒となる能力があるが、その可能性は前文で認識されているものの、ほとんど活用されておらず、監視もされていない。

政策協議へのユースの参加を確立している国には、有望な例もいくつかある。カナダでは首相ユース協議会が設立され、ブルキナファソではSDGsの推進と現地化のプロセスにおいてユースのためのオンブズマンの役割を担うユースリーダーがいる¹⁰。オランダには独自の国家SDGプロジェクトと目標を持つユース代表プログラムがあり、2017年には、持続可能性のための日本ユース・プラットフォームが日本の自主的な国民レビューのためにユース主導のシャドウレポートを作成した。しかし、ユースがSDGsアジェンダの達成に貢献できるよう、ユースの参画を宣言しているにもかかわらず、これらの例はむしろ例外である。

女の子とユース女性を対象とした5年にわたる詳細な調査の分析によると、彼女たちが最も関心を持ち、キャンペーンを展開している課題は、貧困、女の子と女性に対する暴力、ジェンダー平等、性と生殖に関する健康と権利、気候、環境である。「ガールズ・レポート2023」調査に参加した26カ国に焦点を当て、これらの優先事項に対する進捗状況を、関連するSDGsに照らし合わせて評価した。その結果、加盟国からの報告内容がばらばらであるために、関連データを入力すること自体が困難であることが明らかにされた。2022年にはわずか44カ国の加盟国が、SDGsの進捗状況に関する自発的国別レビュー（VNR）に参加していないため、SDGsに向けた進捗状況をモニタリングする、持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラム（HLPF）でさえ、ほとんどデータを持ち合わせていない。ユースの参加はVNRで正式に認められているわけではなく、SDGs実施状況のモニタリングにユースが参加するための資金も、大半の加盟国は準備していない。どのレベルにおいても、ユースの参加は評価もされず、優先されていないことは火を見るよりも明らかだった。

国連SDGジェンダー・スナップショットによると、「SDG5の進捗状況を把握するために必要なデータのうち、現在利用可能なものはわずか47%に過ぎず、女性と女の子は、事実上見えない存在となっている」¹¹。更に、SDGの指標232のうち、ジェンダーや思春期の若者/ユースに特化したものは18指標に過ぎず、これは指標全体の8%未満にすぎない。

8. Equal Measures 2030. 2022. 2022 SDG Gender Index. [online] <https://www.equalmeasures2030.org/2022-sdg-gender-index/> にて入手可能 [accessed 20 July 2023].

9. World Economic Forum. 2023. Global Gender Gap Report 2023. [online] <https://www.weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2023> にて入手可能 [accessed 20 July 2023].

10. Ibid.

11. UN Women. (2022). "Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2022." Retrieved from: <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2022/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2022> [accessed 14 August 2023].

SDGデータの分析結果、女の子やユース女性の生活には限られた改善しか見られないことが明らかになった。彼女たちは依然として貧しい状況に置かれている。

指標1.3.1

社会保障制度によって保護されている人口の割合

女性は男性に比べて社会保障の恩恵を受けにくい。

- ・ シエラレオネでは、少なくとも1つの社会保障を受けている女性は10%であるのに対し、男性は100%である(2020年のデータ)。
- ・ 日本では男性の99%に対し女性は66%である。

女の子と女性に対する暴力は目に見えるような減少はしていない。

指標5.2.1

これまでにパートナーを得た15歳以上の女性や少女のうち、過去12か月以内に、現在、または以前の親密なパートナーから身体的、性的、精神的暴力を受けた者の割合(暴力の形態、年齢別)

- ・ レビューした26カ国のうち、身体的暴力が経時的にどのように変化したかを測定した8カ国のうち¹²、15～19歳の既婚の思春期の女の子のうち、過去12か月間に身体的暴力が少なくなったと報告したのは2カ国(ケニアとフィリピン)だけであった¹³。
- ・ 大半は、この年齢層で暴力の増加が記録されている。

指標5.3.2

女性性器切除を受けた15歳～49歳の少女や女性の割合(年齢別)

- ・ FGMの発生件数は若干減少している。
- ・ FGMを受けるユース女性の割合の経年変化を測定した5カ国では、そのほとんどが改善している¹⁴。だが、現在の実施率は未だに高い。
- ・ 例えば、エチオピアでは、FGMを受ける15～19歳の女の子の割合を、2000年の70%から2016年には47%まで減らすことに成功した。
- ・ シエラレオネやブルキナファソでも状況は同様で、最新の測定によれば、女の子の2人に1人がいまなお、この習慣を続けている。

指標16.1.4

夜間に自身の居住区地域を一人で歩いても安全と感じる人口の割合

- ・ この指標に関するデータを収集している5カ国¹⁵では、女性が「安全だと思う」と回答する割合がかなり低かった。
- ・ 2019年のカナダでは、「夜間に歩いても安全だ」と答えた女性は30%だったのに対し、男性は50%だった。
- ・ 同じ年のアイルランドでは、女性が安全と回答したのは64%だったのに対し、男性は87%だった。

12. ドミニカ共和国、ジンバブエ、ヨルダン、ケニア、マラウイ、ネパール、フィリピン、シエラレオネ。

13. ケニアは23.7% (2003年) から20.9% (2014年) に減少し、フィリピンは14.7% (2008年) から9.3% (2017年) に減少したと報告している。ケニアは23.7% (2003年) から20.9% (2014年) に減少し、フィリピンは14.7% (2008年) から9.3% (2017年) に減少したと報告している。

14. ブルキナファソ、エチオピア、ケニア、シエラレオネは減少したが、ナイジェリアは2.9% (2003年) から2018年には13.7%へとわずかに増加した。

15. ドイツ、カナダ、アイルランド、ナイジェリア、パラグアイ。



さらに、2017～2022年のデータを用いた最近の国連報告書によると、女性に対する偏見は10年前と同様に根強く残っている¹⁶。

世界人口の85%を対象としたジェンダー社会規範指数では、男女ともに10人中9人近くが女性に対する根本的な偏見を持っていることが明らかになっている。80カ国で人口の半数が、男性の方が優れた政治指導者になれると考えており、4分の1が、男性が妻を殴ることは正当化されると考えている。

その証拠に、SDGSアジェンダは、ジェンダー平等への進展を妨げ続けている根深い文化的規範や固定観念に対して、目に見える変化をもたらしていない。

他にも理由がある。SDGsは枠組みと世界的な約束を提供しているが、変化をもたらすという成功は、最終的には国や地域の努力にかかっている。2030年までに目標を達成するためには、政府、市民社会組織、コミュニティリーダー、そして個人が、ジェンダー・トランスフォーマティブ政策、プログラム、計画を実施するために協力するという、政治的意志を示す必要がある。これらは、有害な社会規範に挑戦することによって焦点を当て、各状況に合わせたものでなければならない。これは、世界の多くの地域で、女の子と女性の権利が広範に後退し、市民空間がますます制限されるのを目の当たりにしている現在の情勢においては、さらに極めて重要である¹⁷。ジェンダー差別がすべての国やコミュニティで取り組まなければならない、思春期の女の子の世代は取り残される危険性が高い。

16. United Nations Development Programme (UNDP) Gender Social Norms Index 2023. Retrieved from: <https://hdr.undp.org/content/2023-gender-social-norms-index-gsni#/indices/GSNI> [accessed 11th August 2023].

17. CIVICUS. (2023). Facts and Figures. CIVICUS Monitor. Retrieved from <https://monitor.civicus.org/facts/> [accessed 12th August 2023].



16歳が駐ブルキナファソ・スウェーデン大使に就任
© Plan International

お金を追う

投資が鍵である。政府、ドナー、NGOからの資金提供がなければ、女の子やユース女性の生活が大幅に改善される可能性は低い。2021年には、新たな資金拠出が約束されたにもかかわらず、女性の権利団体は、政府開発援助(ODA)総額の0.13%、ジェンダー関連援助全体の0.4%しか受け取っていないと推定されている¹⁸。また、多国間または二国間機関や政府からユースの運動に利用できる資金がないことも重要である¹⁹。

女子教育の改善を追跡する指標は、ここ数年最も進展しており、利用可能な資金の51%という最も多くの資金を受け取っているのも、この分野である。思春期の女の子やユース女性のアクティビストの優先分野のひとつである、女の子や女性に対する暴力に取り組むプログラムを含むジェンダー平等は、11%である。気候変動関連問題は、気候変動が女の子、女性、ユースに与える影響に関する証拠があるにもかかわらず、ジェンダーと思春期の若者を対象とした政府開発援助のわずか1%しか受け取っていない²⁰。

資金調達にはSDGsアジェンダの成功の中心にある。女子教育のように、投資が行われるところに進歩がある。全体として、女の子とユース女性は変化をもたらす強力な力を示している。プランと世界銀行による調査では、女の子の教育と健康に投資することで、労働力参

加の増加、所得水準の向上、貧困率の低下など、経済的・社会的な大きな見返りが得られることが実証されている^{21, 22}。女の子とユース女性は、多くの場合、地域レベルで活動しており、本調査のためにインタビューしたアクティビストたちは、早すぎる結婚から生理の貧困、女の子や女性に対する暴力に至るまで、さまざまな問題についてコミュニティへの啓発活動を行った結果、女の子の生活が改善されたことを実感している。女の子主導の取り組みや、女の子を中心とした取り組みに投資することで、ユースの参加への約束を適切に実行することは、変革をもたらす可能性がある。

更に、データへの投資は、SDGsの進捗状況を監視し、説明責任を確保する上で、また女の子の現在の課題、新たに生じている課題、不利な状況についての理解を深める上で、極めて重要である。

18. AWID (Association for Women's Rights in Development). (2021). Where is the money for feminist organising? Data Snapshots and call to action. https://www.awid.org/sites/default/files/2022-01/AWID_Research_WITM_Brief_ENG.pdf にて入手可能 [accessed 16 May 2023].

19. FRIDA. "No Straight Lines: Transformations with Young Feminist Organisers" (2020). <https://nostraightlines.youngfeministfund.org/> にて入手可能 [accessed 17 May 2023].

20. Devonald, M., Guglielmi, S. and Jones, N. (2023). Investing in adolescent girls: mapping global and national funding patterns from 2016 - 2020. Report. London: Gender and Adolescence: Global Evidence

21. Citi Group and Plan International (2020) The Case for Holistic Investment in Girls: Improving Lives, Realizing Potential, Benefiting Everyone. Plan International. <https://plan-international.org/publications/the-case-for-holistic-investment-in-girls> [accessed 15 August 2023].

22. Wodon, Q., Montenegro, C., Nguyen, H., & Onagoruwa, A. (2018). Missed Opportunities: The High Cost of Not Educating Girls. The Cost of Not Educating Girls Notes Series. World Bank. Washington, DC. Retrieved from <http://hdl.handle.net/10986/29956> (License: CC BY 3.0 IGO) [accessed 15 August 2023].

女の子と ユース女性の 意見

「SDGsは、キャンペーンや行動計画の方向性を示してくれるから、とても便利です。」

Fatimata、22歳、ブルキナファソ

ネパールの18歳の女の子は、自身の権利について学んだ後、結婚することをやめた。

© Plan International

1

アクティビストの多くがSDGsについて聞いたことがあり、聞いたことがないと答えたのは、203人中8人だけだった。彼らがキャンペーンや活動を通じて最もよく知っていた目標は、ジェンダー平等、気候変動対策、貧困撲滅、教育だった。グアテマラ出身のGirasol(22歳)は、MDGsとは異なり、2015年の目標がマルチステークホルダーが連携して策定されたことが、特に重要だと強調し、これは目標をより重要なものになっているかもしれないと述べている。

2

キャンペーンの目的の策定、政策変更の提唱、他者への啓蒙、活動やプログラムの設計など、計画立案の目的でSDGsを利用する者もいた。国際的なアジェンダに馴染みのない人々のために、SDGsを翻案しなければならないことも多かったが、各国の政治家をターゲットにしたキャンペーンでは、SDGsが特に有用であると認識されていた。多くの場合、アクティビストは必ずしも特定の目標に向かって活動しているわけではないが、その活動は明らかにこれらの目標に沿ったものであった。

「あるSDG目標について正確に語り、私がやろうとしている活動をしているアクティビストを特定することはできません。しかし、グレタ・トゥンベリさんのようにSDGsに沿ったことを提唱するアクティビストの話は聞いたことがあります。」

Mala、18歳、タイ

3

アクティビストはSDGsについて、他のアクティビスト、学校や大学、ソーシャルメディア、NGOからなど、様々な方法で学んでいた。SDGsについて聞いたことがあるアクティビストの大半は、SDGsが有用であると感じており、SDGsの存在によって、自身がキャンペーンを展開している問題がより強力なものになると感じていた。SDGsは、自身の活動や、支援を得ようとしている政治家や権力者の心を集中させるのに役立ったという。

「...私はSDGsがアクティビストの中で流行っていると思います。世界的な流れに乗りたいのですから。資金を申請する際にも、SDGsは活動やその成果を定義するものであるため、現地でプログラムを実施するための資金を得るために使う流行語なのです。」

Haka、22歳、ジンバブエ

4

SDGsは有用な提唱活動ツールとなり得、また、他のアクティビストとの世界的なつながりを提供してくれる。かつSDGsは、ユース女性アクティビストが自国政府の情報へのアクセスとその利用法について責任を追及する良い機会でもある。これが本当に効果的であるためには、ユースの参加をSDGsの監視に適切に統合し、データ監視のプロセスに関する十分な研修とその為の資金を国レベルで提供する必要がある。

「私たちがしていることの背後には、全体的な闘いがあるということを知ることとは、私たちにとってアイデアとして非常に有益であり、また、今日の社会に存在するすべての問題と闘っている私たちは一人ではないという安全装置、支えを与えてくれるから、非常に重要です。」

Luki、21歳、パラグアイ

5

政府や政治家との対話は、SDGSアジェンダの存在によって促進されることが多かったが、会議は開かれたものの、行動が伴わないと感じる人もいた。関与は場当たりので体系化されていないと見られ、アクティビストはフォローアップの欠如に不満を漏らした。思春期の女の子やユース女性がSDGSアジェンダに持続的に関与するためには、もっと多くのことが必要である。

「リスニングとアクティブ・リスニングは違います。片方の耳から入って、もう片方の耳から出ていくのです。重要なことを話す女性の訴えに、10分間は耳を傾けるでしょう。でも、きちんと話を聞くかどうかは神のみぞ知ります。私は彼らが拝聴している、その証拠を見たことがないです」。

Gormfhlaith、24歳、アイルランド

6

SDGsは政府や国際レベルでは役に立つが、コミュニティや草の根レベルではあまり役に立たないとするアクティビストもいた。

「でも、私はを、自身の街や大学、町などを変えようとするユースのグループ内での立場を正当化するためにSDGsを使うことは決していません。」

レオニー、22歳、ドイツ

7

多くの人が、SDGsが貧困や飢餓の削減、ジェンダー平等など、自国の政府に影響を与える役割を果たしていると感じている。また、気候変動に関する進展のなさに批判的な意見もあった。

「他の16の目標を達成することは素晴らしいですが、気候変動対策を達成しなければ、私たちの住む世界はなくなってしまう。」

Alina、24歳、アイルランド

8

SDGsに対する批判の大半は、SDGsが広範でありすぎ、実施の詳細が不十分であることに集中していた。アクティビストは、SDGsをどのように活動に活用するか、SDGsのプロセスにどのように参加するかについての情報が不足していると考えていた。データは複雑であり、アクティビストたちは、もし彼らの参加が本当に優先されるのであれば、もっと利用可能な支援があるはずだと感じていた。有用である可能性がある生成データはアクセス不可かユーザーにとって扱いにくいものであった。また、SDGsは非現実的だと感じている人もいた。

「まあ、とても素晴らしい目標だと思うし、最終的にそれがすべて達成されるのであれば、それは素晴らしいことです。でも、絶対に15年という期限で達成するのは無理だと思います。というのも、非常に多くの異なる状況で、本当にシステム全体の変革が必要な、非常に大きな複雑な問題を、SDGsは扱っているからです。」

Lillith、17歳、オランダ

21歳、早すぎる結婚反対をはっきりと主張している、シエラレオネ。

© Plan International

結論

ユース女性の活動においてSDGsが果たす正確な役割については、いくつかの留保や意見の相違があるものの、全体的には、ユース女性アクティビストはSDGsが自身の活動において果たす役割を評価しており、彼女たちの活動はSDGsの成果に貢献しているという感覚がある。目標の多くは、ジェンダー平等、ジェンダーに基づく暴力(GBV)、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)、気候変動対策といった彼女たち自身の優先事項と一致しており、貧困と飢餓の削減、質の高い教育といった他の目標は、彼女たちがコミュニティで行っている活動と絡み合っている。

SDGsの存在は、思春期の女の子やユース女性が世界的なアクティビストコミュニティの一員であることを実感するのに役立つと同時に、自身が関心を寄せる問題について自国の政府を動かすために利用することもできる。しかし、SDGsは魔法ではなく、多くのアクティビストは、自分たちの生活や活動への実際の影響という点で、SDGsに限られた期待しか抱いていなかった。説明責任をめぐる問題もある。女の子やユース女性のアクティビストは、どのようにして進捗状況を適切に監視し、政府に説明責任を果たすことができるのだろうか？

重要なのは、SDGsを知らなかったアクティビストたちがいたことであり、これは、国際的な政策立案者と草の根コミュニティの間で、より良いコミュニケーションと、より焦点を絞った理解が必要であることを示している。これが整えば、ユース女性アクティビストのキャンペーン・エネルギーと注力は、SDGsアジェンダを推進する上で極めて重要なものとなるだろう。



「SDGsに対する7年生の私の最初の感想は、実に馬鹿げているというものでした。大勢の政治家や外交官たちが集まって、世界の17の問題をリストアップしたのでしょうか？それなら私にもできます... 今となつては有用な枠組みだと思ふし、組織にとって有益であるかも理解できます..かなりしっかり理解できたと思ふし、それぞれの本当の意味を理解するためにもっとできることがあるんじゃないかと思ふんです... だから、私の成長というのは、なぜこのようなものが存在するのかというところから、これは面白いフレームワークだけど、もっと改善できるんじゃないかというところまでだと思います」。

Audrey、20歳、カナダ

提言



FGM反対を訴えるためにコミュニティで活動している17歳、シエラレオネ。

© Plan International

深く根付いた文化的規範や固定観念は、資金不足と相まって、SDGsの下でのジェンダー平等の進展を妨げ続けている。

これは、権利、特に女の子と女性の権利が広範囲にわたって後退している現在の政治的・経済的状況や、COVID-19パンデミックの余波によって、個人も国家も窮地に立たされていることによって、更に悪化し、不実行の言い訳にもなっている。全体として、SDGsの成功とその包摂性重視の表明は、差別を最も受けやすい人々から始めなければならない、これには女の子とユース女性も含まれる。

家庭やコミュニティ、国家機関や法制度の中など、あらゆるレベルで有害な社会規範に異議を唱え、変革するためには、より断固とした実践的な取り組みが必要である。女の子が主導する集団行動への投資を拡大し、世界的な枠組みから地元での実施への道筋により明確に焦点を当てることで、最も重要な草の根レベルにおけるSDGsアジェンダの影響力を強化し、拡大することができるだろう。

「非常に漠然としていて、幅が広いため、実行に移すという点では、多少重要性を欠きますそして、時にはそれらは、向上心はあるものの、具体性に欠けていると捉えられがちです。オーストラリアでは、特に選挙運動や何かを成し遂げようとする場合、非常に具体的なものが求められます。」

Kaing、19歳、オーストラリア

彼女たちの活動において、女の子はジェンダー平等、GBV、そしてSRHRに優先的に取り組んでいる。彼女たちは、政府の支援に裏打ちされたものであれば、SDGの枠組みは、ジェンダー平等やGBV、SRHRといった分野が改善を進めるうえで有効だと考えている。このような洞察は、進捗があるべきところに近づいていないという疑いのない証拠と相まって、現場で十分な行動が起きていないことを示している。

以下の提言は、女の子やユース女性の声に基づいている。

- 1 加盟国は、SDGサミットおよびSDGsの残りの期間において、2030アジェンダの分野横断的優先事項としてのジェンダー平等に対する政治的意志、投資、注力を高めなければならない。
 - a. SDG枠組みの中で、ジェンダー平等と女の子の権利に対する加盟国の支援を刷新し、増加させることが緊急に必要である。私たちは、加盟国に対し、サミットで確固たる意思表示を行い、すべてのSDGsにわたるジェンダー平等と思春期の女の子のための介入への投資に対する世界的・国内的な強い誓いを承認するよう求める。
 - b. ジェンダー平等の進展を加速させるには、女の子の相互に関連した現実、懸念、優先事項に対応するSDGの目標にまたがる統合的な投資が必要だ。女の子の生活は、1つか2つのSDGsだけに焦点を当てるだけで済むものではない。女の子のためのSDG実施は、この点を認識して実施すべきである。例えば、思春期の女の子のプログラミングのためにセクター横断的な投資を行うとき、それが複数のSDGsに利益をもたらすことは良く知られている。
 - c. SDGsアジェンダは、持続可能な開発において、ジェンダー平等を中心に据えるための枠組みを提供する一方で、ステークホルダーが女の子の権利に取り組む、思春期の若者ための世界フォーラム、世界難民フォーラム、COP28といった機会を具体的に提供しなければならない。可能であれば、世界的なSDGsに関連したプロセス間で連携し、一貫して取り組むべきであり、ジェンダー平等を達成し、女の子の権利を保障するために、あらゆる機会を確保すべきである。
- 2 各国政府は、SDGsの進捗状況を適切に追跡できる、年齢とジェンダーで細分化したデータ収集に投資しなければならない。データ収集にこれらのレンズを適用することにより、SDG枠組みの中で女の子と女性が可視化され、どのような真の進捗がなされているかを追跡できる。2027年の次回のSDGサミットまでに、年齢とジェンダーで細分化したデータで報告する政府の数が明らかに変化することを期待している。
- 3 国際的な政策立案者と各国政府は、草の根レベルでのSDGsアジェンダの所有権を促進し、奨励し、SDGsに関するアクセス可能で実用的な情報を提供するだけでなく、地元のアクティビストとそのコミュニティへの影響と関連性を最大化するために、女の子との直接的なパートナーシップのもとで、SDGの介入策を設計しなければならない。政府や市民社会は、自主的な国民レビューのようなSDG枠組みの公式な説明責任のメカニズムに女の子やユースが参加することを奨励すべきである。女の子がこのような場から排除されている場合には、彼女たちの視点からの進捗状況を把握できるようなシャドーレポートや代替的な報告に参加するよう支援すべきである。また、ユースがSDG実施を主導する、変革の主体であると報告することもできる。政府は、データ監視のプロセスについて適切な研修を提供し、政府が説明責任を果たせるように、女の子、ユースグループ、コミュニティとともに市民スコアカードのようなツールを活用すべきである。
- 4 国際的な政策立案者や各国政府は、思春期の女の子やユース女性のアクティビストと体系的かつ継続的な関わりを持つことに注力する必要がある。彼女たちの生活に影響を与える問題について定期的に協議し、対話することで、若いアクティビストが変化を促し、今日の課題に対処するのに適したより良い世界というSDGsの約束を実現するのを確実にすることができる。そのためには、政策立案者と各国政府は、ジェンダー平等とユースの参加に十分な資金を割り当て、両者への取り組みが単なる美辞麗句ではなく、十分な資金が投入されたプロジェクトとプログラムに裏打ちされたものであることを保証しなければならない。



謝辞*

この調査の一環として、活動やキャンペーンに関する意見や経験を共有してくれた思春期の女の子やユース女性たちに感謝したい。彼女たちの時間と洞察に感謝する。特に、ピアツーピアインタビューを実施したアクティビストと共同研究者、そして調査を促進し、本報告書へのフィードバックを提供してくれたプランのスタッフに感謝する。

編集長兼報告書執筆者: Sharon Goulds

オリジナル報告書執筆者: Dr Karin Diaconu、Isobel Fergus

*謝辞の全リストはこちらを参照: *State of the World Girls 2023 Technical Report: Turning the World Around: Girls and young women activists leading the fight for equality*: <https://plan-international.org/publications/turning-world-around>.

表紙の写真: 13歳の女の子リーダー、コンタム省、ベトナム。© Plan International

デザイン: Out of the Blue Creative Communication Solutions – www.outoftheblue.co.za

プラン・インターナショナルについて

私たちは、世界中の女の子のために子どもの権利と平等を推進するために努力している。私たちは、子ども一人ひとりの力と可能性を認めている。しかし、それは貧困、暴力、排除、差別によって抑圧されがちである。そして最も影響を受けているのは女の子なのだ。独立した開発・人道支援団体として、私たちは子どもやユース、支援者やパートナーとともに、女の子やすべての弱い立場の子どもが直面する課題の根本原因に取り組んでいる。生まれてから大人になるまで子どもの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え、対応できるようにする。私たちの活動範囲、経験、知識を活用し、地域、国、世界レベルで実践と政策の変革を推進する。85年超にわたり、子どものために強力なパートナーシップを構築し、80カ国超で活動している。

Plan International

International Headquarters
Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155

Fax: +44 (0) 1483 756505

E-mail: info@plan-international.org

plan-international.org

Published in 2023. Text © Plan International

- facebook.com/planinternational
- twitter.com/planglobal
- instagram.com/planinternational
- linkedin.com/company/plan-international
- youtube.com/user/planinternationaltv